祈りが答え

エペソ人への手紙 6 章 18 節～24 節

御言葉に入りましょう。

「エペソ 6 章」18 節からこの手紙の締めくくりの 24 節までです。

できればお立ちくださって、私が読むのについてきてください。無理な方は座ったままで結構です。使徒パウロは、御霊によって、興味深く、またパワフルに手紙を締めくくっています。18 節、

―エペソ　6：18－

あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

―エペソ　6：19－

また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるように、祈ってください。

―エペソ　6：20－

私はこの福音のために、鎖につながれながらも使節の務めを果たしています。…

これには 2 つの意味があります。パウロは文字通り、ローマ兵の監視下で鎖につながれていただけではなく、自分の事を「鎖で飾られた使節」として見ていました。「鎖につながれたイエス・キリストの大使」名誉の印だったのです。パウロは語っています。鎖につながれていても、

… 宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。

次に、21 節。この人の名前をちゃんと発音できるといいのですが。発音がおかしかったら、天で会ったときに言ってくださいね。ティキコ。大丈夫ですか？

―エペソ　6：21－

私の様子や私が何をしているかを、あなたがたにも分かってもらうために、愛する兄弟、主にある忠実な奉仕者であるティキコがすべてを知らせます。

―エペソ　6：22－

ティキコをあなたがたのもとに遣わすのは、ほかでもなく、あなたがたが私たちの様子を知って、心に励ましを受けるためです。

―エペソ　6：23－

信仰に伴う、平安と愛が、父なる神と主イエス・キリストから、兄弟たちにありますように。

―エペソ　6：24－

朽ちることのない愛をもって私たちの主イエス・キリストを愛する、すべての人とともに、恵みがありますように。

わお～、一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様。今、私たちを落ち着かせ、あなたに集中することができるよう助けてください。特に、今日私たちの前にあるこの箇所は、敵は私たちの気を散らそうとします。敵は、あなたが私たちに聞かせようとされていることを、聞かせたくなく、あなたが私たちに示されたい事を見せたくありません。主よ、今朝あなたが私たちにご用意くださっているものを何一つ見逃したくありません。ですから御

言葉から、はっきりと、具体的に、また個人的に私たちの人生にお語りください。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。
それでは、言葉遊びを許してほしいのですが、お話ししたいのは、祈りが答えられるからこそ、「祈りが答え」であるという事です。こう言うと、よく聞く決まり文句のように受け取られるかもしれません。そうでないといいのですが。祈りが全ての事に対する答えであるという事実は変わりません。私たちはその事を知っているし、話すし、語ります。でも、祈りが人生における全てに対する答えだと、本当に理解しているでしょうか？ 祈りが答えです。武具の着け方への答えも祈りです。祈りによって、私たちは神の武具を着けます。祈りこそ、勝利して生きるための答えです。祈りが、人生の試練に耐えられる答えです。祈りが答えです。また最後に、これも重要な事で、今日の御言葉に関連します。霊的戦いに関して、「祈りこそが答え」です。ところで、サタンはこの事を知っています。サタンは、私たちに知られたくないと思っていますが、サタンは知っていて、だからこそ具体的に祈りの領域を攻撃してきます。これが今日、私が話したいことです。このエペソの聖徒たちへの手紙の終わりにさしあたり、使徒パウロが祈りを求めていることに、私は驚きました。このように考えてみてください。
パウロは、全ての武具を身に着けたローマの守衛下で、鎖につながれています。そして彼らに祈るよう勧めるだけではなく、自分のためにも祈ってほしいと言っています。わお〜。そして大事なのは、彼が祈りを求めていることよりも、求めている

祈りの内容です。私の心を打ったのはそれなのです。私はこの世がハイジャックしてくるのが大嫌いです。アラブ人が例えで「ハイジャック」という言葉を使うべきではないと分かっていますけど、私は本当に嫌でたまりません。私たちクリスチャンが権利を主張すべきものを、この世がハイジャックする事が。その中の１つは、「成功の秘訣」というフレーズです。この世はその言葉を取って、台無しにし、この世の成功という意味で乱用しています。私たちは、使徒パウロの「成功の秘訣」とは何だったのかを話しているのです。彼の成功の秘訣は、祈りの生活でした。そして私にとって、それこそが、彼が大胆に恐れずに、福音を語れるよう、救われていない人に到達できるよう、祈りを求めた唯一の釈明に思えます。これは私にとって非常に興味深いです。なぜなら彼は、ローマの守衛下で、鎖に繋がれているからです。ところで彼は義のため、不当に鎖につながれていました。監禁されていたのです。なのに、福音を大胆に恐れずに伝えられるように祈りを求める？御言葉を学ぶ中で知り、大変愛着が涌いたこの男性は、一体どんな人でしょうか？使徒パウロに、大胆になれるよう祈りを求めさせたのは、一体何でしょうか?彼は大胆ではありませんでしたか？はい、大胆でした！ただ彼が大胆だったのは、祈り、また大胆になる事ができるよう人々に祈りを求めたからなのです。だから彼は大胆でした。「使徒パウロは、恐れ知らず、でしたね？」もちろん恐れ知らず、でした！でも、彼が恐れ知らずだったのは、彼がそのように祈っていたからです！彼が祈らず、また人々に祈りを求めなかった事は何か注目ください。私だったらこう求めますよ。「私のために祈ってください。私は不当にローマの監獄に入れられ、鎖につながれています。釈放されるように祈ってください！」そんな霊的な目で私を見ないでく

ださい。皆さんも全く同じように祈り、また祈りを求めるはずですよ。そうですよね？しかし彼はそうしなかった。それこそが、使徒パウロの人生とミニストリーでの成功の秘訣で、言わば答えでした。私にとって、これこそ、弟子たちがイエスに祈り方を教えて欲しいと尋ねた理由なのだと思います。興味深いのは、彼らはイエスに、説教の仕方や、奇跡の行い方、またその他様々な事を聞くのではなく、彼らがイエスに聞いたのは、「祈り方」です。知るべきは、彼らはイエスが持っていた力、イエスが行った奇跡を目撃したので、結論は明白でした。『祈りが源である』と。『祈りが答えである』と。『秘訣は祈りである』と。救い主の公生涯の間、彼らは間近でイエスを見ていて、イエスが、皆から離れて、何よりもまず祈られるのを実際に見ていました。イエスは絶え間なく祈られ、使徒パウロが 18 節で書いているように、「どんなときにも」祈られました。彼は言います。「あらゆる祈りと具体的な願いをもって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。」ある翻訳では、現代は使わない「懇願(supplication)」という単語が使われています。基本的に「祈りにおける非常に具体的な嘆願と要求」という意味です。そして、なんというか、言い方はマズいのですが、ほぼ全領域に及びます。なぜなら彼は言います。「どんなときにも、あらゆる祈りと具体的な願いをもって」パウロが言わんとしていたのは、「いつもずっと御霊によって祈る。」だと感じ取れます。ところで、皆さん、いつも目を閉じて祈る必要はないのですよ！車を運転しながらも祈れます。運転中、目を閉じちゃ駄目ですよ。いつも御霊によって祈るのです。これについてはすぐにお話しします。19 節、20 節。パウロは自分のために祈ってくれるよう求め、再び非常に具体的に求めています。21 節、23 節。パウロは、ティキコが、自分の様子

を知らせに行くと伝え、手紙を締めくくろうとしています。そして実際にそうしました。パウロは、ティキコが、彼らを励ますことになるだろうと感じていたのです。パウロこそ、励ましがほしい人ではありませんか？彼こそ、鎖につながれているのです。なのに、パウロは彼らを励まし、彼らが励まされることを願ったのです。それが祈りの力です。

興味深いのは、皆さん、祈りに関する全ての真理を知れば、クリスチャンは絶え間なく祈るようになると考えるでしょう。この話の向かう先は、悲しいかな、そうではありません。多くのクリスチャンにとって、祈りは 一番最初の手段ではなく、最終手段なのです。

ある夫婦の話を思い出します。いつものことで、 妻が夫のところに来て言います「ハニー。私たち祈らないと。」それに対して、夫は答えます。「お～そんなに悪いのか？」マジですか？あなたの奥さんが来て、「祈らなきゃ」って言っているのに、最初の反応が 、「なんてこった。最後の手段は祈りだ！」違います！！！祈りこそ、最初の反応であるべきです。間違ってはいけません。パウロが霊的戦いの文脈で、祈りの最重要性を説いたのは偶然ではありません。再度、彼が鎖につながれている姿を思い浮かべます。状況を描写するのに、神が与えてくださった想像力を働かせることは悪いことではありませんよ。彼が書簡を書いた場所は、牢獄だったのですよ。こう想像してください。彼が座って祈り、主を求め、御座に懇願し、「主よ。この手紙をどう締めくくればいいですか？私は彼らを励まし、霊的戦いについて語りたいのです。どう締めくくればいいですか？」明らかに、聖霊がパウロに霊感を授けられ、彼は祈りの重要性を語って手紙を締めくくりました。

祈らないクリスチャンは、敗北したクリスチャンです。同意されますか？それこそ、敵が願っていることです。また、なぜ敵はそれを願っているのか？敵について、私たちが知っていることは何でしょう？イエスは仰いました。「敵は、盗み、滅ぼし、殺すために来る」（ヨハネ　10:10）敵はあなたを滅ぼしたいので、あなたに付きまとい、観察し、あなたを攻撃できる最適な時を待っています。あなたが無防備であり、疲れている時を。これなんてどうでしょうか。あなたが失望し、弱り果てている時、敵はそこにいるのです。あなたに忘れてほしいと思っていて、敵がよく知っていることがあります。それは、「祈りが決め手」です。祈りは、敵の敗北とあなたの勝利を決定します。この事を話したのを覚えていますね。私たちが敵を打ち負かさねばならないとは、決して想像しないでください。敵は既に敗北しています。私たちはキリストにあって、既に私たちのものである勝利の中を歩めばいいだけです。敵が知っていて、私たちに思い出してほしくないこととは、祈りが敵の運命を決定することです。ところで、だからこそ、あなたが祈ろうとする時、あらゆる事が起こり始めます。子ども達が喧嘩し始め、電話が鳴りだし、あらゆる事が起こり始めます。なぜだと思いますか？それは敵が、クリスチャンが祈ると、終わりだと分かっているからです。敵は終わり、敗北します。だから敵は、祈るクリスチャンが自分を打ち負かす前に、クリスチャンを打ち負かしたいのです。

それ故、祈らないクリスチャンは敗北したクリスチャンで、祈らないクリスチャンは敗北したクリスチャンだけではなく、力のないクリスチャンです。なぜそう話すのかを説明します。実はこれこそパウロが「御霊によって祈りなさい」と語った理由です。私たちが御霊（聖霊）によって祈るとき、御霊（聖霊）の力を受けます。

なぜなら、「私たちのうちにおられる方は、この世のうちにいるあの者よりも力があるからです。」(I ヨハネ 4:4) 私たちはただ「祈りの武器」を使えばいいだけです。チャック牧師が使っていた例えが大好きで、決して忘れることはありません。前に話したことがあると思いますが、もう一度話すのに良い機会だと思います。

2 人が殴り合いをしていて、1 人はナイフを振りかざしています。ナイフを持ってない人は、どうすると思いますか?彼は全力で、対戦相手の手から、ナイフを取ろうとします。なぜか? それはナイフが決め手だと、知っているからです。

そのナイフが、祈りのナイフです。だからサタンは、クリスチャンに祈らせまいとするのです。祈るクリスチャンに待ち受けるものを、知っているからです。パウロがここで「御霊によって祈る」と言っている意味を理解するのが重要です。どういう意味でしょう? 一体それは、どのように機能し、どのようなものなのか？その答えは 2 つあります。まずこれです。私は誰かを神学的に刺激したいわけではありませんが、「御霊によって祈る」とは「祈りの言語」で祈ることです。それは今日のトピックではありませんし、それに時間を取りませんが、御霊の賜物は現代もある、とはっきりと言っておきます。御霊の賜物は終わっていません。私はこの賜物があり、異言で祈ります。神が与えてくださった祈りの言語です。この祈りの言語を受けた時、それがどれほど人生を変えたか、とうてい言葉では説明できません。

「御霊によって祈る」2 番目の方法は、御霊に導かれて祈ることです。これは、聖霊が、私が祈ることができるようにされ、力づけてくださるという意味です。この事を繰り返したくはありませんが、反復と保持のためにもう一度言うべきだと思います。サタンは、祈るクリスチャンには力と勝利が待ち受けているのを知っていま

す。だからこそ、私たちが祈る時、祈ろうとする時、地獄の火蓋が切って落とされます。私自身を参照にするのをお許しください。ここに来る道中も、主が私の人生と祈りの生活でなされた事をシェアするのを、主が本当に願っておられるかを祈っていましたが、私自身は絶え間なく祈るために、祈りの言語(異言)と御霊の御力で力づけられる、この両方が必要です。それが私の力づけられる方法で、今日ここに来るまでの間も、道路状況にもよるのですが、家から教会まで制限速度で車を走らせて 22 分かかります。渋滞の状況にもよりますが、この時間は何にも代えがたい時間です。私にとって祈りの時間だからです。面白いですよ。信号で止まった時、皆が私の方を見ると、分かりますよね。私は独り言を言っています。少なくとも彼らはそう思っています。私が誰に話しているか、見当もつきませんから。でもそうやって絶え間なく祈るのです。私は異言で祈ることができます。今朝の祈り会でも、異言で祈りましたが、このように御霊によっても祈りました。両方の意味ですよ。これこそパウロが「第一コリント人への手紙 14 章 14-15 節」で語っていることです。

―Ⅰコリント　14：14－

もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈りますが私の知性は実を結びません。

―Ⅰコリント　14：15－

それではどうすればよいのでしょう。私は霊で祈り、知性でも祈りましょう。…

その後に非常に興味深い事を言っています。私も以前経験し、見たこともありますが、本当にパワフルです。彼は言います。「霊で賛美し、」時に神は、未知の言語(異言)にメロディーを与えてくださいます。鳥肌なんてものじゃありませんよ。彼

は言います。

… 霊で賛美し、知性でも賛美しましょう。

言い換えると、「私にはその両方が必要で、その両方を絶え間なくしています。」補足させてください。皆さんに、こんな印象を持ってほしくありません。「皆さんの牧師は偉大な祈りの人です！」聞いてください。神は祈りの生活において、導いてくださいました。でもそんな印象を与えれば、最高でも不正直、最低でも不誠実です。正直になりましょう。誰が言えます？「自分は十分に祈っている！」？？なんて言う人がいるのでしょうか？冗談でしょ？マジですか？ 神に力強く用いられた偉大な神の人たちが、生涯の終わりにさしかかった時、聞かれる質問に、彼らは言います。「もっとやれば良かったと思う事は、もう一度人生をやり直せるなら、もっと祈ります。」「もっと祈る？」そうなのです。パウロは、テサロニケの教会あて「第 1 テサロニケ人への手紙 5 章 16-18 節」でこう書いています。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて、感謝しなさい。… 」理由は？「… これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」（I テサロニケ 5 章 16-18）正直になりましょう。教会にいるのですから、なるべきですよね。私たちは認めるべきでは？いつも喜んでいるわけではなく、すべての状況に感謝しているわけではなく、そして明らかにいつも祈っているわけではないことを。もし、皆さんがそのおもな理由を私に尋ねるなら、それは私たちの祈りに対する見方であると答えます。私たちはどのように祈りを見ているでしょうか？私たちがもっと祈らない一番の理由は、祈りを「特権」ではなく、「せねばならない事」と見ているからです。単純に言うなら、多くの人たち

が、祈りを雑用と見ているのです。なぜなら ー正直になりましょう ー 祈りは重労働だからです。なぜ祈りが重労働か知っていますか？祈りは重労働です。使徒パウロは「女性が産みの苦しみをするように、教会のために祈りによって労苦している」と言いました。彼は祈りの中で、労苦していたのです。重労働です。重労働である理由は、自然界で、私たちは霊的存在と霊的戦いをしているからです。だから、こんなにも大変なのです。こういう風に言ってもいいですか？もちろん言いますよ。

祈りは、意気地なしのためではありません。

祈りは、小心者のためではありません。

祈りは、手強いのです。

うお〜〜荒々しい仕事なのです。最前線です！あなたは戦いの中にいるのです！遊び場ではなく、戦場です！ポイントは、

そう、祈りは重労働です。

そう、戦いです。

はい、戦争です。

しかし、祈りの中で、祈りを通して勝利の杯を味わう時、私たちの祈りに対する見方が変わります。同じことを別の方法で言います。神が自分の祈りに、神にしかできない奇跡的な方法で答えてくださるのを見る時、私たちの祈りに対する見方が変えられるのではありませんか？

「ほ〜、祈りは力強いのですね」そうですよ!

「わお〜、神は祈りに答えて下さった！」そうです！

「わお〜 答えは祈りだったのだ！」そうです！！

これは、主が私の祈りの生活において個人的にしてくださったことです。再度、ここに来る道中、祈っていました。「自分の人生で勝利の杯から味わった祈りの答えに関して、適切な言葉で正しい方法で語れるように」私は、主が良いお方であることを味わい、見ました。そしてそれが、私にもっと祈りたいという願いを引き起こしました。「偉大な祈りの人」という風に受け止められたくないのですが、「私ももっと祈れば良かった」と言いたいのです。私たちが理解する上で大事な事なので、この事について考えてほしいのです。神が私達に祈るようにと強制したり、要求したりしておられるとは決して思わないでください。想像できますか？もし祈りがそのようだったら。祈りが「特権」ではなく、「義務/せねばならない事」だったら。こんな感じです。 朝早く起きて、

「祈らなきゃいけないのだ！分かったよ。神様！祈ればいいのでしょう？」

神がこう仰るのが想像できますよ。

「大丈夫。その必要はありません。しなくても良い。しなくても良いです。」

「あなたと時間を過ごさなきゃいけないのでしょう！」

「いやいや、しなくていいから。気にしなくていいよ。あなたがしたくないなら、それがあなたの願いじゃないなら、わたしはそうして欲しくありません。」

私の個人的な祈りの生活において、神は、私が、超自然的であられる神に向きを変えるように、自然の領域において自分でどうすることもできない状態にされました。神は、状況を調整し、もっと言えば、私の人生の歩みを演出されます。それは、「自分には完全に、絶対に不可能。絶対に無理。方策がない。」と気がつくよう

な状況になさいます。私にとって不可能な時、私は、唯一可能なお方へ向かいます。人が救われることの難しさ(不可能さ)について尋ねられた時の、イエスの答えは、「マタイ 19:26」にあります。

―マタイ　19：26－

それは人にはできないことですが、神にはどんなことでもできます。

主の御使いが、処女としてこの世の救い主を産むとマリヤに語った時、彼女がどれほどぶったまげ、驚き、呆然としたか、想像を絶するでしょう。マリヤは主の御使いに「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」と尋ねました。御使いは、「ルカの福音書 1 章 37 節」でこう答えます。「神にとって … 」この言葉を聞いてください。「 … 不可能なことは一つもありません。」(ルカ　1：37)「一つもない」の意味は分かります？全く、一切、不可能な事など何もありません。

週半ばの「詩篇」の学びでは、もちろん聖別された言い方ですが、神がこう言っておられるようです。「いいかい、わたしを見てなさい。あなたをびっくり仰天させるからね。お、お、お、あなたは、それは不可能だって思っているね？完璧！見ていなさい。」私たちは「神にとって不可能はない」と言い歌を書き、その御言葉を暗記します。でも考えてみてください。神が不可能な事をなされるためには、まず私たちにとっては、不可能である必要がありませんか？言い換えれば、もしまだ自分でできることなら、神に任せないってことでは？神のもとに来て両手を投げ出して、「神様！これは不可能です。私にはできません！」と言うことはないからです。まだ私たちの手に負えるなら、自分たちでなんとかしようとします。どうで

す？私たちがどんな人間か知っていますよね。自分の肉の力を尽くしてなんとかしようとするのですよ！神は、私たちが自分の限界に達するのを忍耐強く待っておられます。「彼は、まだ気がついていない。自分でできると思っていますが、いつか不可能だって気がつきます。」ごめんなさい。フラッシュバックしてしまいました。今、戻ってきました。私の好きな箇所は ―これは自分自身にあてはまることですが― 創世記 18:14 です。サラは笑った、と書いてあります。彼女を責めることはできません。サラが出産年齢をとうに過ぎた 90 歳で、血の繋がりのある息子、約束の子を産むと、アブラハムに語られた後に、創世記 18:14 で、アブラハムは修辞疑問を投げかけられます。

―創世記　18：14－

主にとって不可能なことがあるだろうか。

もう一度、こう言っていいですか?「わたしを見ていなさい。」100 歳だったと考えられるアブラハムと、90 歳のサラ。彼女はとうの昔に、子どもが産めなくなっています。「神様、何をされるのですか?」「わたしは、あなたを、あなたにとって不可能なところにまで持って行かなければならなかったのです。そうすれば、わたしが不可能な事が行えるから。あなたにとってまだ可能なら、神を助けようとして、エジプト人の女奴隷ハガルによって子どもを持つでしょう。それなら可能だから。」興味深いですね。まだ私たちにとって可能である時は、肉の力を尽くして頑張り、そうすることで多くのイシュマエルを生むのです。イサクという名の性質は、ヘブル語でも、私の母語のアラブ語でも同じで、英語ではアイザックで、ヘブル語ではイタック(Yishaq)。アラブ語ではイッツァク（Yitzhak）です。イタックであれ、イ

ッツァクであれ、「笑い」という意味です。これは笑えることなのです。これは不可能な事なのです。しかし、名は性質を表します。「わたしは笑ってしまうような事をする。不可能な事をする。でも、それが不可能になるまで、わたしはすることができません。」非常に単純な事を言っているのにとても意味深ですが、そうですよね？それが不可能になるまで、可能にならない。

1 つの質問で締めくくりたいと思います。これはとりわけ人生で困難な試練にいる時、私がいつも自分自身にする質問です。これが質問です。

「神が、あなたの人生で不可能な状況を許されるのは、あなたが神に立ち返り、あなたには出来ないことを、神にしていただくためではないでしょうか？」そして、あなたが神に叫ぶ時、神はあなたの叫びを聞き、不可能な事をされるのでは？

以上です。あなたの唯一の後悔は、すぐに祈らなかったことです。なぜなら、状況が不可能な時、私は祈り、神に叫び、神は叫びを聞いて下さり、まさに必要としていることにいつも十分な恵みを与えてくださいます。時に神は、奇跡的に私の祈りに答えてくださいます。私は神に夢中になります。今は甘やかされています。私は味わい知りました。昔に戻って、スパムを食べるなんてできません。ハワイでは別の言葉を用いるべきでしたね。私は、特上リブロースを味わいました。もっと良い表現がありましたら第一礼拝後に教えてください。是非使いますので。

後 2 分いただけますか?「ノー」って言われます？2 分間で、私自身の力強い証を分かち合いたいと思います。

私と妻は、アブラハムとサラのようでした。子どもを持つのは不可能だと言われ、養子を勧められました。養子縁組をし、実際 15 歳の母親が生む女の子を縁組する

ところでした。私たちが初めてその母親に会う 2 週間前、彼女はキリストに人生を捧げました。準備は全て整っていました。この話しに一枚かんでいるので、ちゃんとした日付を言いますね。1997 年 6 月 1 日にその子が産まれましたが、産みの母親が、その赤ちゃんに愛着が生まれたのです。私たちは出産に立ち会い、名前を付け、その子を家に連れて帰ろうとしているところでした。すると産みの母親が「お二人に渡す前に、この子を家に連れて帰りたい。」と言いました。2 週間後、彼女が赤ちゃんと絆が出来て、手元に置きたがっていることに気がつき、養子を取りやめました。私が神に叫び求めたのはその時でした。決して忘れることがありません。昨日のことのように覚えています。私は、「実の息子を与えてくださるなら、事業を売却し、一生あなたに仕えます。」と神に誓いました。その 3 年前の 1994 年 8 月 14 日に私の父が心臓発作で突然亡くなりました。9 か月後の 1995 年 5 月 22 日、私の母が、私の腕で息を引き取りました。母が死に近づいている時、私は神に向かってこう叫びました。「神様、あなたが母を連れて行かれるなら、私には、もはや親がいません。そして私自身も、親ではありません。私に息子を与えてください。」あの養子が不成立に終わった後、私は再び神に叫び、神は非常に具体的なことばを与え、私の祈りに答えて下さいました。それはアブラハムとサラに言われた創世記 18 章の言葉です。神は仰いました。「一年後、アブラハムにしたようにわたしはあなたに、あなたのイサクを与える。」「でも、主よ。不可能ですよ。」「あぁ、不可能だって言ったかい?わたしを見てなさい。」それが 1997 年 6 月 1 日の事でした。そして 8 月 14 日に、実の息子を妊娠しました。私の父が亡くなった同じ日にちです。そして出産予定日が、私の母が亡くなった同じ日、5 月 22 日でした。私

が「主よ。もし母を連れて行かれるなら、私には両親がいなくなり、私自身も親ではありません。息子を下さい。」と祈った日です。息子は、予定日より遅く生まれました。5 月 22 日に生まれるのではなく、1998 年 6 月 2 日に生まれました。神が語られた、ちょうど 1 年後でした。それで、それから間もなく事業を売却し、アイダホ州コー・ダリーンで最初の教会を始めました。だからこそ今日、私は牧会する特権に与り、この素晴らしい教会で、皆さんの前に立っているのです。なぜなら神は不可能を可能にされる神だからです。決して、決して、決して、敵にこんな考えを置かせてはなりません。神にもできない事があるなどと。主にとって難しいことは、一つもないからです。

祈りましょう。

天のお父様。本当に感謝します。この「エペソ 6 章」で適切に語られた御言葉に感謝します。後は聖霊が働いてくださいますように。私はベストを尽くしました。あなたは私の心をご存知です。私たちを祈りの者としてください。私たちにとって祈りが「義務/せねばならない事」ではなく、「特権」でありますように。

イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

http://www.calvarychapelkaneohe.com/

Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 Ru